

# 第1回まちづくりプロジェクトコンテスト【中学生の部】

## 応募用紙記入例

テーマ (当てはまるものを○で囲んでください)	
○ <b>観光</b>	産業 ・ 文化 ・ 福祉 ・ その他
提案名	
色のバリアフリー ～カラーユニバーサルデザインによる観光促進～	
提案の目的	
<p>市内でカラーユニバーサルデザインを進め、色覚異常を持つ人や高齢者にも快適に郡上での観光を楽しんでもらうことで、口コミで郡上へ訪れる観光客の増加を狙う。</p> <p>また、この事業を行うことで、市内に住む色覚異常を持った人々や高齢者の暮らしやすさも向上させたい。</p>	
提案を考えた動機や背景	
<p>「色覚異常」という言葉は、あまり我々に馴染みのない言葉である。だが、現在日本人で色覚異常を持つ人の数は決して少なくない。そのような人々には、例えば赤と緑、黄と黄緑などの組み合わせが識別しにくい。また、白内障のような老化による眼の疾患によっても色の見え方には変化が生じ、違った色でも似たような明るさの色だと見分けがつかなくなってしまう。ちなみに、日本国内における白内障の総患者数は140万人を超えている。</p> <p>色彩は、デザインの重要な構成要素の一つである。上記のような人々が少ないとは言えない今、郡上でもより多くの人に配慮した色のデザイン、つまりカラーユニバーサルデザインを検討することは必要なことだと思い、今回提案しようと考えた。</p>	
提案内容	
<p>市役所や観光連盟、自治体などが協力。市内の公共交通(バスや長良川鉄道)の時刻表や路線図、市内マップ等にカラーユニバーサルデザインを導入する。それに加えて、防災マップや看板なども色覚異常を持つ人や高齢者に配慮した配色にしたい。</p> <p>具体的には、例えば複数の色を用いた掲示では、①黒、②オレンジに近い赤(色覚異常を持つ人は、濃い赤を黒と混同する。それを回避するためにこの色を使用)、③明るめの青(濃い青は黒と識別しにくい)、④青みの強い緑(緑と赤の混同を防ぐため)の順に色を用いる。それに加えて、色の明るさのコントラストも強くすることが望ましい。</p> <p>しかし、見分けがつかない色には個人差がある。視力の低下の度合いはもちろん、色覚異常にも様々なものがあるからだ。私が挙げたのはあくまで一例である。よって、識別しにくい色相の把握を行い、より多くの人々が利用可能なデザインを目指していくことが肝要だ。</p> <p>なお、カラーユニバーサルデザインを進めていることは積極的に市外にもアピールし、郡上への注目度もアップさせたい。</p>	

氏名 (団体の場合は 代表者名)	(フリガナ) シミン キョウコ 市民 協子
団体名	(フリガナ)
住所	〒501-4607 郡上市大和町徳永〇〇番地
電話番号	0575-88-XXXX FAX 0575-88-XXXX
E-mail	shimin-kyoko@XXXXXX.XX.jp

【お問い合わせ】 郡上市市民協働センター 〒501-4607 大和町徳永585番地 郡上市役所大和庁舎1階  
 担当: 臼田 雅実 TEL: 0575-88-2217 FAX: 0575-88-2218 E-mail: kyodo-c@gujo-tv.ne.jp